

2022年10月31日  
株式会社三菱UFJ銀行

## 戸田建設株式会社で「サステナビリティ・リンク・ローン」を成約

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 ほんざわ じゅんいち 半沢 淳一（以下、当行））は、戸田建設株式会社（代表取締役社長大谷清介（以下、同社））との間で、ローン・マーケット・アソシエーション<sup>[1]</sup>（以下、LMA）等が定めたサステナビリティ・リンク・ローン原則に即した、「サステナビリティ・リンク・ローン」によるシンジケートローン契約（以下、本契約）を、締結いたしました。

サステナビリティ・リンク・ローン原則では、借り手のサステナビリティ目標と連携したサステナビリティ・パフォーマンスターゲット（以下、SPT）を設定し、金利などの貸付条件とSPTに対する借り手のパフォーマンスを連動させ、SPT達成への動機付けを与えることで、環境的・社会的に持続可能な経済活動および経済成長を促進し、支援することを目指します。

### 【サステナビリティ・パフォーマンスターゲット】

	内容
SPT-1	SBTにて定める Scope1,2 <sup>*1</sup> のGHG排出総量の削減率で2030年度末に2020年度比42%削減
SPT-2	SBTにて定める Scope3 <sup>*1</sup> のGHG排出総量の削減率で2030年度末に2020年度比25%削減

※1 Scope1：建設作業所における重機の軽油等の使用により直接排出されるGHG排出量など

Scope2：オフィス等における購入した電気・熱の使用により発電所で間接的に排出されるGHG排出量など

Scope3：Scope1,2以外の間接排出で同社事業に関連する他社のGHG排出、例えば、建設資材製造時の排出量や施工した建物の運用期間中の排出量など

同社は、2030年度に向けて、パリ協定が求める水準である1.5°C水準のCO2削減目標を設定し、SBTイニシアチブによる認定を取得しています。今後、目標達成に向けた削減活動を進め、2050年度には、SBTイニシアチブのネットゼロ新基準（The Net-Zero Standard）に則り、10%未満の残余排出量をバリューチェーンの外で「中和（森林由来吸収や炭素除去技術等を活用）」し、事業活動におけるカーボンニュートラルの達成を目指しています。その進捗を計測するKPIとして、中期経営計画ローリングプランにて、2024年度にScope1+2でのCO2排出量削減率△16.8%以上（2020年度比）、Scope3でのCO2排出量削減率△10.0%以上を設定しています。

### 【本ローンの概要】

組成方法 シンジケートローン

契約締結日 2022年10月26日

契約実行日 2022年10月31日

アレンジャー/エージェント 当行

組成金額 300億円

契約期間 10年間

貸付人

株式会社愛知銀行	株式会社青森銀行
株式会社秋田銀行	株式会社足利銀行
株式会社岩手銀行	株式会社沖縄銀行
株式会社香川銀行	神奈川県信用農業協同組合連合会
株式会社関西みらい銀行	株式会社京都銀行
株式会社京葉銀行	埼玉県信用農業協同組合連合会
株式会社七十七銀行	株式会社十六銀行
株式会社常陽銀行	住友生命保険相互会社
全国信用協同組合連合会	太陽生命保険株式会社
株式会社中国銀行	株式会社東邦銀行
株式会社栃木銀行	株式会社富山第一銀行
長野県信用農業協同組合連合会	株式会社名古屋銀行
株式会社西日本シティ銀行	農林中央金庫
株式会社八十二銀行	株式会社東日本銀行
株式会社百五銀行	株式会社福岡銀行
株式会社北海道銀行	株式会社三菱 UFJ 銀行
株式会社みなと銀行	株式会社宮崎銀行
株式会社武蔵野銀行	株式会社山口銀行

計 36 行

また、本契約では、株式会社格付投資情報センター（R&I）より、サステナビリティ・リンク・ローン原則への準拠、設定した SPT の合理性について第三者意見を取得しています。

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループは、「MUFG Way」の中で「世界が進むチカラになる。」を存在意義（パーパス）と定め、持続可能な環境・社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決のための取り組みを進めています。引き続き、お客さまの ESG の取り組みを支援し持続的な成長を後押しすることで、環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

[1] 欧州、中東、アフリカのシンジケートローン市場の流動性、効率性、透明性を改善することを目的とした協会。英国に本拠地を置き、欧州・中東を中心に 65 ヶ国以上約 800 機関が加盟。

以 上